

保育士養成教育のあり方ーテキストの検討から指導内容を見るー

奥 典之・森内 智子

美作大学・美作大学短期大学部紀要（通巻第64号抜刷）

保育士養成教育のあり方ーテキストの検討から指導内容を見るー

Nature of the Education/Training of Childcare Providers:
An Examination of the Contents of Textbooks

奥 典之¹・森内 智子²

キーワード：保育士養成教育 実習指導 専門職の価値・倫理

はじめに

これまで著者らは保育士における保育ソーシャルワークの重要性を述べてきた。そして、保育士養成教育をおこなっている立場として、保育技術より専門職としての人間性や価値、倫理に焦点を当てつつ、その重要性や方法について模索してきた。

本研究では、筆者らが理論と実践の重なる部分を実習として捉えていることから、実際に実習教育に使用しているテキストを検討することで、その指導内容として重要とされている項目について検討する。

問題と目的

保育士養成校やその教員らにより、保育士養成において重要とされている項目は違っていると考えられる。実際に養成校と実習施設との協働の場である実習においても、実習施設で求められている保育士像と養成校による指導内容は合致しているとは言い難いし、さらに園により様々であるといえよう。

また、全国保育士養成協議会編集の「保育実習指導のミニマムスタンダードVer.2ー『協働』する保育士養成ー」でも示されているように、養成教育の自己点検・評価、および養成校と園との連携・協働が如何にされているかにより、実習の効果が影響される。

塩津らの論文「保育実習指導の在り方を考えるIー

実習先（保育所）のアンケート調査から見てきたものー」によると、「…保育の専門的知識、技術のみでなく『…子どもを愛し、理解し、尊重する基本的態度と、それに基づいた真に豊かなヒューマン・リレーションを持つことでもできる人間性と感性』と定義される“保育マインド”が持てるよう、…」とある。

[2017年に改定された保育所保育指針]

保育所保育に関する基本原則で、保育所の役割として「保育所における保育士は、…倫理観に裏付けられた専門的知識、技術及び判断をもって、子どもを保育するとともに、子どもの保護者に対する保育に関する指導を行うものであり、…」とある。これらはいかなる施設の職責においても共通する重要な原則であり、保育において用いる専門的な知識・技術及び判断は、必ず倫理観が基にあるべきであるとするものである。この「倫理観に裏付けられた」という保育士の専門性は、学校の授業だけでは決して学ぶことが出来ないものであり、実習との相互的な学びにおいて初めて習得が可能であると、「保育実習指導のミニマムスタンダードver2」では述べられている。

[保育実習指導のミニマムスタンダード]

平成21年に告示された保育所保育指針にて、保育所等において、規範化された保育実践のミニマムスタンダードにより保育が行われることになったことに伴

¹美作大学短期大学部

²専門学校穴吹福祉医療カレッジ

い、保育士養成校の教育にも新たな枠組みが必要である、と取り組まれてきたものである。そしてこれらの取り組みのなかで、これからの保育士養成に重要なキーワードとして「キー・コンピテンシー」という概念が導入された。これらは、「総合的でメタ的能力と、その中核に思慮深さをもつ」ことこそが現在の保育現場において必要とされる力であり、保育士養成のポイントであるとされている。

そして、保育所保育指針にある「倫理観に裏付けられた」とは具体的にはどのような内容であるかについては、2016年に改定された児童福祉法の理念が保育の専門性である倫理観と不可分なものである。すなわち、同法第1条にある「全て児童は、児童の権利に関する条約の精神にのっとり、適切に養育されること、その生活を保障されること、愛され、保護されること、その心身の健やかな成長及び発達並びにその自立が図られること、その他の福祉を等しく保障される権利を有する。」とは、最大限尊重するという行動、言動の規範をもつ、ということの意味する。同時に、同条文にある児童の権利に関する条約の精神についても最大限に尊重したものでなければならない。その精神について述べると、この条約によって、これまでの子ども観が大きく変わったものとして、子どもは権利の客体であったものから、権利の主体へと大きく変換したものであるから、子どもを権利の主体と捉える子ども観をもつだけでなく、これらの子ども観を実践するとともに社会全般に広めていく、ということがその精神として求められると考えるのである。

これらのことを鑑み、実習指導内容をテキストから検討していくことにより、実習指導において重要とされている項目についてまとめることを目的とする。また、今後の実習指導内容の課題についても考えたい。

研究の方法

対象：テキスト15冊（1997年以降に出版されたもの）
項目：①実習とは何か・実習の意義・目的、②実習関係書類について、③実習の概要・種類、④保育士の役割・専門性、⑤保育士の社会的責

任、⑥保育士の職業倫理、⑦養護について、⑧幼児教育の理念、⑨子ども理解、⑩配慮の必要な子への関わり、⑪子育て支援の必要性について、⑫実習施設の機能、⑬実習施設の目的、⑭実習の評価について、⑮自己評価について、⑯実習園の理解、⑰実習現場からのメッセージ・要望、⑱事前訪問（オリエンテーション）、⑲実習前の準備、⑳実習課題（実習計画）について、㉑日誌（記録）とは何か、㉒実習日誌の書き方、㉓心構え（心得）、㉔プライバシー保護・守秘義務、㉕子どもの最善の利益、㉖子どもの権利保障、㉗家庭に対する支援、㉘子どもの自立、㉙チームワーク・職員同士の連携、㉚ソーシャルワーク、㉛安全危機管理、㉜感染症とその予防、㉝障害に対する知識や技術、㉞保育教材について、㉟抗体検査や細菌検査、㊱実習生自身の生活習慣・健康管理について、㊲知識・実技の習得、㊳子どもとの関わり、㊴指導計画（指導案）・支援計画について、㊵保育所での実習について、㊶幼稚園での実習について、㊷認定こども園について、㊸0から2歳児クラスでの実習について、㊹施設での実習について、㊺他分野における実習事例、㊻様々な場面での対応、㊼実習中の留意事項、㊽実習訪問指導について、㊾報告書の書き方、㊿実習反省会・報告会、㊽お礼状について、㊽実習先とのつながりの継続（ボランティアの参加等）、㊽実習後の今後の課題の明確化、㊽現場と養成校との連携、㊽関係法令等、㊽権利ノート、㊽保育所保育指針・幼稚園教育要領、㊽全国保育士会倫理綱領、㊽実習実施基準・履修必須科目等

以上59項目において見ていく。

結果と考察

結果は「表1 指導内容のポイント」に示した通りである。（小数第2位四捨五入）

表1 指導内容のポイント

	項目																件数	%
	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o			
1	実習とは何か・実習の意義・目的	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	15	100.0%
2	実習日記の書き方	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	15	100.0%
3	実習園の理解	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	14	93.3%
4	実習前の準備	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	14	93.3%
5	心構え（心得）	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	14	93.3%
6	実習の概要・種類	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○		○	○	○	13	86.7%
7	事前訪問（オリエンテーション）	○	○	○	○		○	○	○		○	○	○	○	○	○	13	86.7%
8	日誌（記録）とは何か	○	○	○	○		○	○	○	○		○	○	○	○	○	13	86.7%
9	実習施設の機能		○	○	○	○						○	○	○	○	○	11	73.3%
10	実習施設の目的		○	○	○	○			○		○	○	○	○	○	○	11	73.3%
11	指導計画（指導案）・支援計画について	○		○		○	○	○	○	○	○		○	○			11	73.3%
12	お礼状について	○		○	○		○		○	○		○	○	○	○	○	11	73.3%
13	実習の評価について		○	○	○		○	○		○		○	○	○	○	○	10	66.7%
14	実習課題（実習計画）について		○	○		○	○	○	○			○	○	○	○	○	10	66.7%
15	保育士の役割・専門性	○			○	○	○	○				○	○		○	○	9	60.0%
16	知識・実技の習得			○		○	○	○	○	○		○	○				9	60.0%
17	施設での実習について	○			○	○		○	○			○		○		○	8	53.3%
18	様々な場面での対応	○						○	○	○		○	○	○		○	8	53.3%
19	子ども理解					○	○	○				○	○		○	○	7	46.6%
20	自己評価について		○	○	○		○			○				○	○		7	46.6%
21	保育所での実習について	○			○	○	○	○		○							7	46.6%
22	実習中の留意事項	○			○		○	○	○	○				○			7	46.6%
23	実習実施基準・履修必須科目等	○	○					○				○			○	○	7	46.6%
24	プライバシー保護・守秘義務			○	○	○		○	○			○					6	40.0%
25	実習生自身の生活習慣・健康管理について	○					○			○			○	○	○		6	40.0%
26	実習反省会・報告会				○							○	○	○	○	○	6	40.0%
27	幼稚園での実習について	○			○			○		○							5	33.3%
28	実習先とのつながりの継続（ボランティアの参加等）							○	○		○				○	○	5	33.3%
29	実習後の今後の課題の明確化		○		○	○						○		○	○	○	5	33.3%
30	実習関係書類について				○		○	○				○					4	26.7%
31	保育士の職業倫理				○	○	○								○		4	26.7%
32	保育教材について			○	○			○			○						4	26.7%
33	子どもとの関わり					○						○	○		○	○	4	26.7%
34	全国保育士会倫理綱領				○							○	○		○	○	4	26.7%
35	保育士の社会的責任					○	○								○		3	20.0%
36	養護について					○	○				○						3	20.0%
37	実習現場からのメッセージ・要望				○					○			○				3	20.0%
38	ソーシャルワーク											○	○		○	○	3	20.0%
39	抗体検査や細菌検査									○				○	○		3	20.0%
40	報告書の書き方				○		○									○	3	20.0%
41	関係法令等				○							○	○				3	20.0%
42	保育所保育指針・幼稚園教育要領	○		○								○					3	20.0%
43	幼児教育の理念					○	○										2	13.3%
44	子育て支援の必要性について					○	○										2	13.3%
45	子どもの最善の利益					○								○			2	13.3%
46	子どもの権利保障												○	○			2	13.3%
47	感染症とその予防				○								○				2	13.3%
48	認定子ども園について					○		○									2	13.3%
49	0から2歳児クラスでの実習について	○										○					2	13.3%
50	配慮の必要な子への関わり						○										1	6.6%
51	家庭に対する支援													○			1	6.6%
52	子どもの自立													○			1	6.6%
53	チームワーク・職員同士の連携													○			1	6.6%
54	安全危機管理				○												1	6.6%
55	障害に対する知識や技術													○			1	6.6%
56	他分野における実習事例								○								1	6.6%
57	実習訪問指導について								○								1	6.6%
58	現場と養成校との連携								○								1	6.6%
59	権利ノート															○	1	6.6%

[①実習とは何か・実習の意義・目的] [②実習日誌の書き方]

この2つの項目はどのテキストにも入れられていた。

学生の実習に対する意識や認識は重要とされていることが分かる。

また、日誌は現場では必須であり、PDCAサイクルを意識した上でも、重要視されているのも当然のことといえる。

[③実習園の理解] [④実習前の準備] [⑤心構え(心得)]

この3つの項目は93.3%でほとんどのテキストによって触れられていた。

施設実習は特に種別により違いがあるため、実習園の理解は保育所より重要となる。

心構え(心得)は、実習生の立場を意識することが重要であるため、どのような心づもりで実習をおこなうか、ということが記されている。

[⑭実習課題(実習計画)について] [⑮保育士の役割・専門性]

この2つの項目は66.7%であった。

計画的に実習はおこなわれ、しっかりとした目的意識や課題をもって臨まないと無意味なものである。しかし、テキストの指導内容の現状としては、それほど重要視されていないことが分かる。

一方、保育士の役割・専門性に関しては、ここで価値・倫理に触れられるべき部分であるのに、内容としては、保育所保育指針に記入されているもの程度であった。

[⑳保育士の職業倫理] [㉑全国保育士会倫理綱領]

この2つの項目は26.7%であった。

ここは倫理に触れられている唯一の部分であった。しかし、筆者らは価値と倫理の両方が必要と考えているが、期待したものではなかった。

本研究のまとめ

以上のように、筆者らが理論と実践の重なる部分を実習として捉えていることから、実習指導において重要とされている項目をテキストにより見てきた。しか

し、筆者らが求めていた、保育技術より専門職としての人間性や価値、倫理に関するものやその重要性や方法については全く触れられているものはなかった。

平成21年度全国保育士養成セミナー 全国保育士養成協議会第48回研究大会実施要項「保育士養成におけるキー・コンピテンシー確かな実践力の育成に向けて」でいわれている、保育士のコンピテンシーとして、専門職の価値・倫理が挙げられているが、開発が困難なものとして述べられているだけであった。

提案・提言として、筆者らはこれからの保育士養成教育は、実習教育におけるものでなく、一つの必須科目としてカリキュラムに組み入れる必要があると考える。その深まりを求めるのであれば、哲学まで関わる「保育哲学」なるものの開発・提示が必要になるといえる。

今後の課題

今後の研究として、保育の専門職としての人間性・価値・倫理等のキーワードに焦点を当て、文献と実践をもとに模索したいと考えている。そして、保育士養成教育に新たな、また再確認をおこなうものを提案・提言したい。

引用・参考文献

- 1 塩津恵理子、山口香織 神戸親和女子大学児童教育学研究36巻
保育実習指導のあり方を考えるⅠ－実習先(保育所)のアンケート調査から見えてきたもの－
神戸親和女子大学児童教育学会 2017年
- 2 大豆生田啓友、高杉展、若月芳浩 編
最新保育講座 12 幼稚園実習・保育所・施設実習〔第2版〕ミネルヴァ書房 2014年
- 3 阿部和子、増田まゆみ、小櫃智子 編 最新保育講座 13 保育実習〔第2版〕ミネルヴァ書房 2014年
- 4 高橋哲郎、菱谷信子 監修 田尻由美子、元田幸代 編著
改訂版 保育者をめざす学生のための実習指導サ

- ブノート ふくろう出版 2011年
- 5 前橋明、石井浩子 編著 実習指導概説 保育・教育・施設実習 ふくろう出版 2012年
- 6 林邦雄、谷田貝公昭 監修 高橋弥生、小野友紀 編著 保育者養成シリーズ 保育実習 一藝社 2012年
- 7 佐藤賢一郎 著 やさしい保育の教科書&ワークブック 保育所実習の事前・事後指導 北大路書房 2017年
- 8 開仁志 編著 保育実習と養成校のコレボレーション！ 実習生指導サポートブック 北大路書房 2013年
- 9 守巧、小櫃智子、二宮祐子、佐藤恵 施設実習パーフェクトガイド わかば社 2014年
- 10 小櫃智子、守巧、佐藤恵、小山朝子 幼稚園・保育所パーフェクトガイド わかば社 2013年
- 11 岸井慶子 監修 保育実習研究部会 編著 3つのカベをのりこえる！ 保育実習リアルガイド 学研 2017年
- 12 近畿大学九州短期大学 保育実習事前指導 近畿大学九州短期大学 1999年
- 13 駒井美智子 編著 松本健二 / 小林保子 施設実習ガイド 保育者として成長するための事前事後学習 萌文書林 2014年
- 14 浦田雅夫 編著 考え、実践する施設実習 保育出版社2015年
- 15 愛知県保育実習連絡協議会、「福祉施設実習」編集委員会 編集 伊藤貴啓、小川英彦 編集代表 新保育士養成カリキュラム 保育士をめざす人の福祉施設実習 (株)みらい 2011年
- 16 内山元夫、岡本幹彦、神戸賢次 編集 保育士養成課程 改訂 福祉施設実習ハンドブック (株)みらい 2007年
- 17 一般社団法人全国保育士養成協議会 編集 保育実習指導のミニマムスタンダード Ver.2 「協働」する保育士養成 中央法規 2018年
- 18 板垣健太郎 黒須敦子 他 保育実習 建帛社 1997年
- 19 平成21年度セミナー・研究大会 組織委員会 実行委員会 平成21年度全国保育士養成セミナー 全国保育士養成協議会第48回研究大会実施要項 保育士養成におけるキー・コンピテンシー確かな実践力の育成に向けてー 社団法人 全国保育士養成協議会 2009年